

不登校が生じない魅力ある学校づくり

1 特集について

都内公立小・中学校の不登校児童・生徒数は近年増加しています。また、学校における不登校への取組については、児童・生徒が不登校になってからの事後的な取組に偏っているのではないかと指摘もあります。そのため、新たな不登校を生まないよう、全ての児童・生徒が学校（学年、学級）を魅力ある場所と感じられるようにする「未然防止」の取組を一層充実させていくことが必要です。

魅力ある学校づくりの取組の一つとして、教職員による「居場所づくり」と児童・生徒自身による「きずなづくり」を意識した教育活動が挙げられます。また、学業に関することが不登校の要因ともなり得ることを踏まえ、児童・生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を推進することも大切です。その際、ICTを積極的に活用することで、個に応じた指導を一層充実させることができます。

そこで本特集では、不登校が生じない魅力ある学校づくりのための居場所づくりやきずなづくり、個に応じた指導の充実について紹介します。

2 紙面の活用について

教職員による「居場所づくり」について、理解を深めることができます。

ICTを活用した個に応じた指導の充実について、具体的な事例を確認できます。

児童・生徒自身による「きずなづくり」について、理解を深めることができます。



もっと詳しく知りたい

<二次元コード（読み取り or クリック）から、本特集の解説動画が視聴可能>





Webアンケートはこちらを
読み取り or クリック

不登校が生じない魅力ある学校づくり



詳しい解説はこちらを
読み取り or クリック

都内公立小・中学校の不登校児童・生徒数は近年増加しています。また、学校における不登校への取組については、児童・生徒が不登校になってからの事後的な取組に偏っているのではないかという指摘もあります。そこで本特集では、不登校が生じない魅力ある学校づくりのための居場所づくりやきずなづくり、個に応じた指導の充実について紹介します。

学校生活の場面

居場所づくり

年度始めに積極的に情報を収集する



★年度始めの確認のポイント

身体・健康面

例 遅刻、欠席、早退がないか 等

心理面

例 一日の中で気分のムラがないか 等

社会・環境面

例 児童・生徒間にどのような関係やグループができ始めているか 等

安心安全な学校づくり

教員と気軽に話せる関係づくり
児童・生徒同士の間関係づくり
ができる場を設定する。

心配な点がある児童・生徒につ
いて、教職員間で情報を共有す
る。



きずなづくり

場と機会の設定

互いに認め合える活動を設定

授業

係活動

行事



学校が楽しい



自主性の尊重

主体的に活動する
機会を設定

みんなで何かを
するのは楽しい



年間を通して児童・生徒の全体像を把握し、一人一人の様子について常に確認しましょう

授業の場面

個に応じた指導の充実

個別指導 グループ別指導

話し合い活動
学習課題の提示の工夫



学習内容の習熟の 程度に応じた指導

それぞれの児童・生徒に
応じたきめ細かな指導



ICTの活用

デジタル教科書
デジタル教材 等

興味・関心等の状況 に応じた課題学習

子供の状況に応じた
ねらいを明らかにし
た指導



補充的な学習 発展的な学習

学習内容の確実な定着
を図る指導
学習内容の理解を深め・
広げる指導



主体的な学びの設定

一人一人が間違えたこと、
気付いたこと、分からない
ことを聞き合う場面を設定

授業がよく分かる



全ての児童・生徒の「心の居場所」「きずなづくりの場」となる学校



- 参考文献
- 児童・生徒を支援するためのガイドブック～不登校への適切な対応に向けて～（平成30年12月 東京都教育委員会）
 - 小学校及び中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）
 - 義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針（平成29年3月31日 文部科学省）
 - 不登校児童生徒への支援に関する最終報告～一人一人の多様な課題に対応した切れ目のない組織的な対応の推進～（平成28年7月 不登校に関する調査研究協力者会議）
 - 不登校に関する調査研究協力者会議報告書～今後の不登校児童生徒への学習機会と支援の在り方について～（令和4年6月 不登校に関する調査研究協力者会議）
 - 平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業実績報告書（平成26年 国立教育政策研究所）